環　境　教　育　実　践　セ　ン　タ　ー　だ　よ　り

緑の風

京都教育大学環境教育実践センター発行　　第１５号　２０１８年８月３１日

センターの活動紹介

（公財）京都ＳＫＹセンターとのコラボ

センターでは毎年、一般市民を対象とした公開講座を開いていますが、今年は京都 SKY センターと共同で「農園芸活動支援ボランティア養成講座」を初めて開講しました。小中学校での農園芸体験の大切さが広く認識される一方で、学校園では農園芸活動の担い手になる人材が不足しています。本講座は、社会貢献活動に関心の高いシニア層を対象として、学校園での農園芸活動を支援できる人材を育成するために、栽培に関する知識と技術をレクチャーするという内容のものです。

4 月には京都 SKY センターの会員の方に、環境教育実践センターを知って頂くため、京都 SKY ｼﾆｱ大学の「現地研修」を当センターで実施しました。当日は好天に恵まれ、80 名以上の会員が研修に参加されました。まず始めに「食環境問題を考える」というテーマで、現在の農業が抱えている課題とその解決に向けて低投入持続型に変化する農業について、講義を行いました。その後、2 つのグループに分かれて、センターの施設見学とシソ科植物「アロマティカス」の植え替え体験を行い、植え替えたアロマティカスは家に持って帰って頂いて育ててもらうことにしました。2 時間程度の現地研修でしたが、環境教育実践センターがどんなところなのか理解して頂いたように思います。

現地研修の後、4～7 月まで 6 回にわたる「農園芸活動支援ボランティア養成講座」には 18 名の受講生が参加されました。講義と実習を組み合わせながら、キュウリとスイートコーンは種まきから、ナスは育苗していた苗の定植からスタートし、畑づくりから収穫までの栽培活動を体験してもらいました。受講生からはナスやキュウリの剪定作業はとても難しいといった感想を頂きましたが、真剣な面持ちで栽培活動に取り組まれていました。残念ながら収穫を楽しみにしていたスイートコーンは、直前の豪雨で倒伏してしまいましたが、野菜類の栽培に関して多くのことを学んで頂いたと思います。今後は小学校等の農園芸活動のボランティアとしての参加に繋げていければと考えています。（南山）

附属桃山中学校の職場体験学習

センターでは毎年、京都市立中学校や附属桃山中学校から職場体験学習の生徒達の受け入れを行っています。今年も７月３日から３日間、附属桃山中学校から２年生の男子生徒が５名職場体験学習に訪れました。3 日間という短い期間ですが、センターで体験する仕事は様々です。

最初の職場体験での仕事はジャガイモの収穫作業とサツマイモの植え付け作業でした。6 月中旬からセンターでは近隣の幼稚園や保育園からたくさんの園児たちがジャガイモ掘り体験に訪れますが、園児たちが掘り残したジャガイモを収穫します。生徒たちは、土を掘り起こすためのフォークでジャガイモを突き刺してしまったりと初めは慣れない手つきでしたが、徐々に要領を得たようで、掘り残しがないように汗だくになりながら収穫作業を行いました。

別の日には大学生の授業でも行うランの組織培養実験にチャレンジしました。クリーンベンチでの無菌操作に最初は緊張していましたが、雑菌が入らないように集中して取り組んでいました。家に持って帰った培養瓶の中のシンビジウムが元気に生育してくれているといいのですが・・・。

木曜日の午後には大学生と一緒に農業実習の授業にも参加しました。この日は１日大雨でしたが、実習の時間中は一時的に雨も止み、夏から秋にかけて咲く花の寄せ植えを体験しました。受講生の大学生に指導されながら、思ったような寄せ植が完成したでしょうか。生徒達が植えた寄せ植えコンテナは、今もセンター管理棟の玄関前でたくさんの花を咲かせています。

こうして、3 日間の職場体験学習はあっという間に終わったのではないかと思います。暑い中での農作業の大変さや初めての培養実験、いろいろな世代の人と協力して一緒に仕事をすることの楽しさを感じてくれていたら、とてもうれしく思います。（南山）

毎年の田んぼの風景－附属特別支援学校－

本校の学校行事に「もちつき大会」があります。毎年 12 月の中旬に行われる恒例の行事で、全校の生徒を縦割り（３分割）してもちつきを行います。ここで使われるもち米を高等部の生徒が約半年かけて育て、精米をしてもちつきに使います。

４月下旬、大学の環境教育実践センターに田んぼをお借りして一連の作業（田おこし・田植え・鳥よけ付け・稲刈り・脱穀・精米）を主に辻先生にご指導を受けて取り組んでいます。毎年行われる活動なので高等部２年生・３年生は昨年・一昨年のことを覚えていたり、辻さんの話を聞いて思い出したりしながらその時々の作業に取り組みます。鍬の使い方、鎌の使い方を丁寧に教えていただき、初めて取り組む１年生も説明を良く聞いて作業にかかります。田おこしをすると土を鍬でひっくり返すので黒い土が見えます。田んぼ全体の田おこしが終わると、田んぼ一面が黒く変化しその様子を見て「土がひっくり返って黒く見えるね」という声が聞かれます。田植えのあと稲が育つまで、日々の管理は環境

教育実践センターの職員の方にお任せしていて、水の管理や雑草抜きなどはできていないのですが、稲穂が出始める時期になると鳥よけを付けに行ったり、年によっては案山子を作って持って行ったりすることもあります。

10 月初旬の稲刈りでは、生徒と教師が一丸となって稲刈り・結束をして学校に持ち帰ります。生徒たちは、このもち米がもちつき大会で必要なことを知っていて、「美味しいお餅になるかなぁ」「みんな、喜んでくれるかな」と米の出来を気にしながら作業をしています。今年もそろそろ稲穂が伸び始める時期になりました。田んぼが緑から黄金色に変化する自然の営みを感じとり、生徒たちと共に作業に取り組んでいきたいと思います。（北岡）